

第10上流砂防堰堤



スリット（透過型）の第10上流砂防堰堤

◆スリット（透過型）砂防堰堤のしくみ

スリット砂防堰堤は、溪流の流れをさえぎることなく、平常時には土砂を流下させる一方、土石流や洪水のさいには土砂を捕捉し、洪水の後半、または中小出水時に、その土砂を流下させるものです。
このスリット砂防堰堤により、溪流の下流に必要な粒径の土砂が流水によって供給されるとともに、魚類、溪流昆虫、野生動物がスリット部を通して、堰堤の上下流を移動することも可能となります。

◆平成23年(2011)にも下流集落への被害を防止

平成23年8月31日～9月5日の台風12号でも、稲荷川で土石流が発生しましたが、第10上流砂防堰堤が土石流・流木を捕捉し、下流の集落への被害を未然に防ぎました。
このとき、日向砂防堰堤から流下した大粒径の土砂が、同じスリット型でも鋼材間隔の広い第13上流堰堤を通過した後、間隔の狭い第10上流堰堤において捕捉されたものと考えられています。



台風12号による土砂堆積ライン

土石流発生前



土石流発生後